

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

38

第十一幕 第1場

ローマよりヴェネチアまでの道すがら

1523年4月

登場人物： 巡礼者 イニゴ・デ・ロヨラ

果物を売る少年

少年の母

村の人 1,2,3

【語り】 イニゴは教皇よりエルサレム巡礼の許可と祝福を受けたのち、1523年の復活節第二週に（4月13日か14日）にローマを発ち、ヴェネチアに

向けて歩み始めました。大きな志を持ち、喜び勇んで出発したものの、二日目にイニゴの心は落ち着かなくなり、ローマで受け取ったお金のことが神への信頼の足りなさを意味しているのではないかと心配するようになりました。

【白衣の天使の合唱】（註 11）

神にのみ 信頼置くと 言いし汝の 決意はいずこ
受け取りし 金に頼りて 神に頼む 心失せ行く

イニゴ： そうなったら大変だ。 「お金なしに、エルサレムに行くのは無理」

との言葉につい動かされて、人間的な手段にも頼ろうという気持ちが頭をもたげていた。

【黒い使いの合唱】 イニゴよイニゴ非常識 コモンセンスがすべてだよ
金も持たずにエルサレム？ 馬鹿も休み休み言え

イニゴ： ローマで7ドゥカット受け取った時、友人たちも同じことを言っていたな—。

【白衣の天使の合唱】 主イエスがその弟子たちを 宣教に遣わされし時
履き物も杖も持たせず 帯の中銀貨も入れず
ひたすらに人の善意と 神のみに全てを委ね
神の国宣べ伝えしを ^{のたま}宣ひし主にぞ従へ

イニゴ：その通りだ。イエスがともに行ってくださいるとき、何一つかけること
はないのだ。分かっているつもりが、「無一文でエルサレムに行ける
か？」という人々の忠告に耳を傾けてしまった。善意から言ってくれる
のが分かるだけに。イエス様は、「明日のことを思い煩うな」とい
われたではないか！

【黒い使いの合唱】 イニゴよイニゴ甘すぎる 千五百年前とは違うんだ
自分で働き稼がずに 人の懐あてにする
そんなの今どき通用せん 船賃自分で用意しな

イニゴ：いや、私は神のみに絶対的な信頼を置き、人間的な手段であるお金は
捨ててしまおう。バルセロナでは、港のベンチの上にお金を残してき
たが、7ドゥカットとなると大金だし、どうしたものか？

【白衣の天使の合唱】 道すがら出逢う人々 押しなべて貧しきを見よ

持ち金を施すならば なにがしか助けとならむ

イニゴ： そうだ、施しをすれば、少しは助けになるだろう。

あの子はさっきから声をからして叫んでいるが、果物を買ってあげる

人がいないな。

果物を売る少年： おじさん、オレンジいかが？ わからないの？ エスパニョール？

(スペイン語で) 美味しいオレンジいかがですか？

イニゴ： あっ、スペイン語話せるの？

少年： ほんの少しね。スペインやフランスの人もこの道をよく通るから。

イニゴ： じゃー、二つ貰おうかな？

少年： ありがとう。この二つ、特別大きいよ。

イニゴ：よく熟してるね。それではこれで。おつりはいらないよ。

少年：わあ、こんなに？なん十個分にもなるよ！

イニゴ：いいから取っておきなさい。このオレンジ一つずつ一緒に食べようよ。

ここに座っていいかな？

少年：どうぞ。僕オレンジ売ってるけど、あまり食べたことないんだ。

ああおいしい！

イニゴ：売れ残ったりしないの？

少年： そういう時は八百屋さんに返しに行ってその分お金貰うんだ。

父さんの薬代にね。

イニゴ：お父さん病気なの？

少年：そう。2年前からね。

だから父さんの代わりに、母さんと兄さんと僕が働いてるんだ。

イニゴ：そうか。じゃー、これお母さんに渡して、お父さんに滋養のある物と薬を買ってあげてください。これスペインのお金だけど、イタリアでも使えるはずだ。

少年：わー、ホントにいいの？金貨はすぐに替えてくれるし、このままでも使えるよ。ごちそうさま。オレンジおいしかった。ちょっと家に帰ってくる。直ぐ近くだから。ちょっとここにいてくれる？

イニゴ：ああ、いいよ。

(しばらくして、少年が母親を連れてくる。)

少年：おじさん、母がお礼を言いたいんだって。

母(村人1)：(イタリア語で)子供と私たちに親切にさせていただいてありがとうございます。主人も感謝し、礼を申し上げます。

少年：僕が通訳しましょうか？

イニゴ：大体わかります。お父さんお大事に、とお伝えください。

村人 2：この人が、気前のいいスペインの旅人かね？

俺んちも、ばあさんが病気でナー、薬がなかなか買えないんだけど。

村人 3 と 4：うちも生活に困ってんだが、少し分けてもらえんかね？

イニゴ：いいですよ。これを 3 人で分けてください。

村人 3 人：これはありがてー！有難うございますだ。

【語り】 この調子で施していくうちに懐と、イニゴの気持ちは軽くなり、ヴェネチアにつく頃には、その晩を過ごすためのわずかな小銭を残すだけになりました。

註 11：第一部：第一幕第一場の影の声(註)をご参照ください。

イニゴの内心に浮かぶ思い(『靈操』の「靈の識別」の項で言う靈動)を
白衣と黒衣の天使たちの合唱(光の天使、善靈からの声と、悪靈からの声)
として表してみます。光の天使を五七調の文語、黒衣の使いを七五調
の口語でと、区別して表そうとして始めたので、何とかその形を維持
ようと努めはするものの、特に文語が難しく、冷や汗ものです。